

機関紙

丸戸城

第36号

発行 二戸市商工会青年部 二戸市福岡字横丁24
URL : http://ninohe-impulse.com TEL 23-4361

活かそう 我が町 我が史跡

二戸市の財産を考える

漆がつなぐモノ

歴史的建造物を陰から支える

うるし【漆】(英語: Japanese lacquer)

ウルシ科の落葉高木。樹皮に傷つけて樹液を採取し、塗料や接着剤の原料として利用される。果実は、紙(ロウ)の原料として用いられる。

ウルシの語源は「麗し(うるわし)」「や「潤し(うるおし)」「とも言われる。

塗料としての用途が一般的で、「地球がくれた天然素材で地球にやさしい」とも言われる。

(※漆が乾くのは、その成分の一部がもつ酵素が空気中の酸素と反応し、液体から固体となる一種の化学反応である。)

漆塗りは伝統工芸としてその美しさと強靭さを評価され、食器や高級家具、楽器などに用いられる。耐水性や、酸・塩・アルコールなどの物質にも冒されない耐薬品性、抗菌作用、腐敗防止や防虫など、様々な特性または効果が確認されている。生の漆が肌につくと、その成分によるアレルギー反応(ウルシかぶれ)が起こる。

「こんな話も:」

・古来の人々は、漆には特別な力があると信じてきた。触れるとひどくかぶれるワケには、邪悪なモノを寄せ付けない力があると考えたからだ。漆塗りの起源には、倭武皇子(ヤマトタケルノミコ)が大猪を仕留める際に、矢先に漆を塗り付けた手が黒く染まって、その後集めた漆の汁を道具に塗り付けたら美しく仕上がった事から...という説もある。

・即身仏の中には、最期の時に漆の樹液を飲み、自ら腐敗しない

身体にしたと語り継がれる例もあるという。

平成18年の新市政のスタートを追いように、平成19年の春に合併を迎えた私たち商工会青年部。決して、「上出来」と評価される初年度ではなかったのかも知れませんが、戸惑い、模索し合いながら互いをフォローし、なんとか乗り切った一年でありました。この「丸戸城」では、私たちが新たに共有する事となった、「市の財産」を取り上げてみようと考えました。今回は、その中のひとつ、「漆」に着目してみました。ひとえに「漆」と言っても、その中には多くの事が詰まっていると知り、冒頭にくいつかの事柄の抜粋を試みました。

これまで、私たちが抱えるイメージは、概ね「漆=漆器」というモノでした。しかし、今回漆に携わる方々から伺ったお話は、漆器だけに留まるモノではありませんでした。

「約9000年」の歴史を持つ

と言われる日本の漆文化。その中を、幾多の苦楽と共に生き抜き、今なお直面する様々な事としっかりと向き合い、「ここに漆」をいかに守り、いかに表現するかと日々情熱を傾けている事も、その一つとして感じられました。漆の用途としては、ご存じの通り「塗料」が一般的です。浄法寺塗はもとより、金閣寺や中尊寺、金色堂、日光東照宮など、それらの補修に用いられているのが、この故郷で育まれた「浄法寺漆」なのだそう。それら世界遺産などの歴史的建造物から認められ、陰ながらその存在を支えている事

からも、良質さが感じられました。さらに、今回の活動で知った「接着剤」としての用途。陶磁器の割れや破損を、漆や金を利用して修復する技法があります。これは「金継ぎ」と呼ばれるもので、漆そのもの、あるいはそれに紙粉を混ぜ合わせ破損を成形し直し、その上に金を蒔いて仕上げる事だそう。これには、傷をあえて隠さず、その様を一つの景色と見立てて楽しむとした、日本人の特別な感性が含まれている事も知りました。その他にも、「麦漆」と呼ばれるモノもあり、とある資料によれば、木と木の接着や、江戸時代の庭造りにおける、割れた庭石の接着、一部の仏像の修理などと、古くから広く必要とされてきたようでもありません。

この記事を書くにあたり、「漆」は一体どれだけのモノを

ないでできたのか? という新たな興味が湧いてきました。残念ですが、たった一度の見聞だけでは、全てを知り尽くす事はできませんでした。しかし、漆そのものとして懸ける「思い」が様々な形で作用し、人やモノ、そして文化や時代をつないだのではと感じました。

私たちの地域にある財産は無数です。今回取り上げた「漆」と共に、それらを「誇り」として胸に抱き、市民が「心」でつなげるのもまたひとつなのではないでしょうか? ほんの僅かでも、そのきっかけを生み出せるよう、我ら青年部は努力してみたいと考えます。きっと、それらの財産は「元氣のタネ」です。より多くの方々と、この地域の「元氣」を育てていきたいです。

まず手始めに、「漆の文化」でカブレてみませんか?



商工会 青年部 50周年を迎えて

志が高い新たな先駆者に

扇田 健一

合併、そして一年

2007年 新しい青年部がスタートしました。不安と期待の一年間でしたが、その中でさまざまな活動をしながら、今もまだ手探りの状態です。部員、一人一人の気持ちの温度差と新しい事業に対する不安があり、全員が本当に手探りの一年だったように思います。

その中で一年が過ぎようとしている時、部員の皆様から、これからの青年部の活動に対して、さまざまなアイデアが出てきました。初めは発言がなかなか出なかった部員が、今では自分の意見をしっかりと発言出来るようになりました。

今年、二戸市商工会青年部は、五十周年を迎えます。式典、記念事業と今年も盛りだくさんの活動が待っています。しかし、今の部員がいれば、すばらしい五十周年を迎えられると思います。

夕張の成人祭のように、歴史を大事にし、自分達のスタイルを組み合わせて、これからの新しい街づくりが出来よう青年部が先駆者となり頑張っていきたいと思っています。(志を高く持ち胸を張って)皆様、応援をよろしくお願ひします。

話は変わりますが、二戸市民の皆様は、青年部の存在をご存知でしょうか？まだまだ、認知されていないようです。中には「何をしても二戸が良くなる事はない」と罵声を浴びせる人もいます。それでも、若者が一生懸命アイデアを出し、活動しなければ、変化は

かをし続ける事は無駄ではないと考えます。志のある人は青年部の門を叩いて下さい。

あなたのアイデアを あなたの行動を 私達は皆さんの参加を待っています。

小さな積み重ねは、一から始まる。先輩が築いた二戸市にも最初の一步があつたはずですが、その一步を大事に私達も前へ進む時が今。苦しい時 だからこそ 前へ。

第1

過ぎ去った日はもう夢の中の出来事、
託された未来への夢は去来青年部にまか
せよう。二十年の節目に又大きな夢を
抱き、挑戦しつづけて。たとえそれが夢幻に
終いりよも受けをふ。大切な仕事夢を見守る
にあり

青 密 記



夢 甲骨文字

目の上に媚飾を施して、巫女が
呪儀を行なう形

(書) 堀内 青樹 氏

節目である前回の40周年の時に、先輩よりいただいた想いを転載しました

雨にも負けずいざ船出

稲庭高原まつり

畠山 永幸

5月27日、天台の湯周辺にて稲庭高原まつりが開催されました。毎年恒例のマラソン大会では市内外から男女あわせて総勢60人が参加しハワイあわわで総勢60人への切符をかけて自慢の健脚を競い合いました。また、稲庭短角牛モモ丸焼き無料試食や釣り堀、歌謡ショーなどのイベントも開かれ来場者は降りしきる雨と肌寒さにもかかわらず新緑の稲庭高原を満喫しました。

当青年部では焼き鳥や豚汁などの売店とちびっこ宝さがしを担当しました。二戸市商工会青年部と旧浄法寺町商工会青年部が合併して初めてのイベントとあってあいにくの雨にもかかわらず多くの青年部員が参加してくれました。売る気満々稼ぐ気満々の部員ですが、残念ながら天気は味方してく



寒い中感謝を込めて

4500個の輝き

イルミネーション事業

高森 悟

旧浄法寺町商工会青年部の冬の事業として約15年続いた、イルミネーション設置活動。旧体制から引き継いだ事業のひとつではありますが、気持ちを新たに取組んでみました。

場所は、例年通り「浄法寺総合支所前広場周辺」。今回は、これまでの「横長」なイメージの設置方法から離れる事にしました。広場に隣接する3階建ての「二戸市立福祉会館」の個性を利用していただき、4色およそ4500個のイルミネーションで、屋上から地面までをつなぎ、「縦長」の直線的な装飾を実施しました。

おおよそ、1か月の点灯期間で行われたこの事業でしたが、取り組

みを変えた事も手伝ってか、地域の方々から多くの称賛と感謝の言葉をいただきました。

今後も様々な活動を通じ、我々が地域とつながり、その輪の一部としてささやかながら運動・作用して、「話のタネ・笑顔のタネ」を生み出していければと思います。



カラーで伝えられなくて残念

日展書友・読書通管理理事
読書法書会 理事
全日本篆刻連盟理事
岩手書道協会常任理事
青樹書道会 主宰

青年部大学の総括と今後の展望

青年部大学室

この1年、新たに「青年部大学室」という機関を設けて活動し、6月に第5回となる「テーブルマナー講座」を、8月には第6回「カクテル講座」そして2月には第7回「手作りソーセージ講座」を開催し、計3回の青年部大学を行う事が出来ました。

総括としてはまず、部内での告知、宣伝不足の感が否めず、この事業がどの様な事業であるかを地域の皆様へ広めていく事が出来なかつた点が、反省材料として残りました。

しかしながら、青年部大学を開催する毎に、番組出演等を通じて宣伝をさせて頂いたカシオペアFMさんや、手作りソーセージ講座の際、共催という形で講話を頂いた市の保健士さんや栄養士さん、広告の掲示、配布にご協力頂いた各事業所や店舗、並びに福岡、中央、石切所の各小学校さん等、地域の多くの方々のご助力を頂いた事は非常にありがたい事であり、この点に関しては本当によかったと思います。

また、講義終了後にお願している無記名のアンケート調査において、参加して頂いた皆様から、高い評価を得た事はとても嬉しく、今後、青年部大学を継続していく上で、大きな自信となりました。

これからの展望ですが、商工会青年部では今後とも是非、地域の皆様方と更に良い関係を築いて参りたいと考えております。

青年部大学も「我々青年部員が講師となり、自らの持つプロの知識や技を、講義という形を通じて皆様に教える事で、お互いの存在

をもっと身近に感じて頂くと共に、地域の皆様との新たな接点を築こう」という目的の下に開催してきました。

そこでまず、夏休み頃を目処に「工作教室」の様なお親子で参加出来る講座を企画して行きたいと考えております。

また、好評を頂いております「ソーセージ講座」をはじめとした飲食系のテーマを開催する際には、健康や食育にも通じた講座を開く事で、地域の皆様、地域の未来を担う子供達に対して、いろいろな角度から、お互いの存在を「もっと身近に」感じて貰える様なアプローチを、積極的に行ってきたいと考えております。

今後も地域の皆様のご期待、ご要望に沿える様な楽しい企画を用意して参りたいと思っております。

皆様方のご参加を、青年部員一同、心よりお待ちしております！



青年部大学でも人気のソーセージ講座

カクテル講座

佐藤 義信

今回、私は「カクテル講座」の講師を務めさせて頂きました。

自分に講師という大役が務まるかどうかとも不安でしたが、青年部の皆さんの助けを借り、準備を万全に整え当日を迎えました。

そして当日は、受講者が大勢で緊張しましたが、なんとか講座を開催することが出来ました。

カクテルは種類も多く、奥が深く、単にアルコール同士を混ぜ合わせればできるというのではなく、そのできるまでの過程や、作り方を受講生にも一緒に体験して

もらいました。

アルコールの種類と分量を説明し、それぞれのシェーカーを振る作業の時は、みなさん緊張しつつも、慣れない手つきで一生涯命カクテルを作っていました。

この講座によって、より多くの方々にカクテルの良さや、奥深さ、楽しさを少しでも理解してもらえれば講師冥利に尽きます。オリジナルカクテルなどもご家庭で作って



シェイカーを真剣に見る受講生

商工会青年部主張発表若手県大会 最優秀賞受賞

主張発表大会に参加して

田口 雅寛

事の起りは、桜舞い散る5月のことある日の部長の一言から。「田口君、今度のリーダー研修会で、北部ブロックの代表で主張発表に出て貰う事になったからよろしく！」

「は？」 「いや、は？」 「じゃなくてさ……」 「じゃなくて、主張発表ってなんですか？」

入部まもない私は、商工会青年部にその様な事業がある事すら知らなかった。

この事業の開催趣旨は「青年部活動や青年部員としての活動を発表し、相互に研鑽する事により、地域のリーダーとしての意識を高め、若手経営者・後継者としての資質の向上を図り、ひいては地域活性化及び、今後の青年部活動の



最優秀賞の賞状を手に

活性化に役立てる事」が目的で、県内5ブロック毎に代表者を選出し、県内の各青年部のメンバーが一堂に会するリーダー研修会において、予め定められたテーマに沿って、自らが青年部活動を通じて得た経験を元に、10分間の制限時間をフルに使って熱弁を振る。いわゆる青年部版「弁論大会」だ。

活性化に役立てる事」が目的で、県内5ブロック毎に代表者を選出し、県内の各青年部のメンバーが一堂に会するリーダー研修会において、予め定められたテーマに沿って、自らが青年部活動を通じて得た経験を元に、10分間の制限時間をフルに使って熱弁を振る。いわゆる青年部版「弁論大会」だ。

ていただければと思います。最後にありますが、青年部の方々に協力していただき、講座を無事終わらせることができて、誠に感謝しております。ありがとうございました。

於本 義憲

いつもは料理をサービスマンをする立場、また講座を受ける立場として参加していましたが、今回のマナー講座の講師を経験して、自分が勉強不足である事を改めて実感しました。

それと同時に、自分の知識や伝えたい事を、幅広い年代のお客様に分かりやすく説明するのはどうしたらいいのかという、ホテルマ



フルコースを前に緊張する受講生

やっと思いを飲み込めた所で、この北部ブロック代表の座が、いかに大役であるか、という事が、ふと頭をよぎった。

何せ、二戸のみならず、一戸、九戸、軽米、大野、野田、普代、種市の各青年部をひっくるめた上での代表なのだから……

しかし、それだからこそ、代表の名に恥じぬ様、全力で取り組まねば！

タイトルを「青年部活動と地域振興・まちづくり」新たな可能性への挑戦」と決め、これまでの「新しく何かを始めたい」として聴病になってはいけぬ！」の言葉を第一声を選び、昨年度から始めた新事業「青年部大学」の話題を軸に、自らの想いを存分に主張した。

念願叶い、私は東北、北海道大会への切符を手にする事が出来た。残念ながら、全国大会への出場までは成らなかったが、仙台で行われた全国大会を見に行き、ステージ上で繰り広げられる各地区の子選を勝ち抜いた代表者の発表を見つめながら「いつか自分もあのステージに立つて発表したい！」と心底願った私がいいた。

私の主張発表は「チャレンジ精神を武器に、地域に根ざした多彩な活動を展開し、そこで得た経験を自らの財産として蓄え、それを地域振興発展の為に活かす事こそが、青年部員のあるべき姿ではないか」と考えます。」と締め括っている。

あのステージにこそ立てなかったが、私は今後も、二戸市商工会青年部「らしさ」の溢れる、魅力ある事業を模索、展開して行こうと気持ちを新たにしたい。

と同時に、この様な貴重な経験が出来た事に、心から感謝している。

部員の店紹介

皆様のご支援をお願いします。

らくだ整体院

平船 成海

今年1月15日に県合同庁舎前、エクセルガーデン内にカイロプラクティックセンター「らくだ整体院」をオープン致しました。

カイロプラクティックはまだまだ知名度が低く、未だに「カイロって何?」「ホップカイロの事?」「笑」などよく聞かれます。カイロプラクティックとは?背骨や骨盤の歪みを徒手によって矯正する方法です。

以前から出張を中心に施術をしたり、自宅に来て頂いておりましたが、場所が分かりにくいとの声も多くありました。この度思い切った店舗に入ります。出張をしていた時のお客様の後押し、地元の方の支えや商工会青年部の仲間の応援があり、ここまで来たと感謝しております。



以前から出張を中心に施術をしたり、自宅に来て頂いておりましたが、場所が分かりにくいとの声も多くありました。この度思い切った店舗に入ります。出張をしていた時のお客様の後押し、地元の方の支えや商工会青年部の仲間の応援があり、ここまで来たと感謝しております。

ソフトバンク二戸

下坪 保夫

ソフトバンク二戸は、昨年の10月25日、各方面様々な方のご協力あって二戸市石切所にオープン致しました。

ソフトバンクショップ(ソフトバンク携帯電話専門店)と言う事で、通常の販売・ご契約の他に法人様の大口契約などもソフトバンク二戸では行うことが出来ます。もちろん、故障修理や使い方、携帯電話料金の支払いまで全ての事でお客様をサポート致します。これまで八戸や盛岡に行かなくてはならなかったソフトバンクユーザの方々大変ご迷惑をお掛け致しました。

これからは全てソフトバンク二戸にお任せください!そして、これからソフトバンクを知っていただくお客様、全力でサポートしていきますのでソフトバンク二戸を宜しくお願いいたします。



営業時間 午前10時~午後7時
定休日 毎週水曜日
二戸市石切所字荷渡二二二
TEL:0195-261-9055
FAX:0195-261-9056

卒業

活動を盛り上げるために
力を合わせて頑張つて

白坂 正幸

旧浄法寺町商工会青年部に入学し、早いもので十五年が過ぎ、今までいろいろな活動をして来た事が思い出されます。福庭の山開き、浄法寺夏祭り、冬のイルミネーション設置などが記憶にあります。なかでも夢灯りの製作は、なかなか思う様に捗らず、「やめればよかったなあ...」と何度も後悔しつつ、何とか完成させる事が出来ました。絵を描いて協力してもらった子供達も見に来てくれて、「わあ、きれい!」というその声に、これまでのみんなの苦勞も吹っ飛んでしまったことが思い出されます。私が入部した当時は、三十人くらいだった部員数も半数となり、そして二戸市商工会と合併し一年を迎えようとしています。

イベントや事業内容には、まだまだ戸惑いもあると思いますが、皆さんと力を合わせて頑張つて盛り上げて欲しいと思います。最後に、これまでお世話になりました先輩方や後輩達には、事業を通じ人と人との出会い、そして繋がりの大切さ、他にもたくさんのお事を学ぶ事が出来ました。本当にありがとうございました。これからの青年部の活動に期待しております。



新入部員紹介

市民の皆様、青年部活動を通して、地域に貢献できるよう頑張ります。何とぞご指導ご鞭撻をよろしくお願いたします。



石橋 和哉
前石橋魚餅



小軽米 健太
前青岩建設



久保田 一幸
前建築クボタ



澤田 秀広
二戸信用金庫浄法寺支店



小館 秀樹
アクサ生命保険株式会社



畑山 隆元
畑山オートボデー



田中 勝也
前二戸パークホテル



横田 和也
前南都美人



山口 雄輔
山本モータース

編集後記

機関紙「九戸城」を制作するにあたって取材などで協力いただいた皆様、原稿集めを手伝ってくれたみんな、原稿を書いてくれたみんな、何度も校正を手伝ってくれたみんな、それぞれの担当で手伝ってくれた部員みんなに感謝をしたいと思えます。

毎年この時期、担当の部員は普段の仕事と機関紙「九戸城」の制作で追われるわけですが、

自分もこの制作をやってみようことは皆さんの協力があり沢山のの方に助けられ、非常に深く、僕自身大変大きな収穫があり今後、機関紙が続くかぎり私も色んな形で協力していきたいと思えます。

幾度もくじけそうになりましたが、そのたびに結束力が強くなりました。皆の力で乗り切り出来上がったこの機関紙「九戸城」に私は大満足しております。(編集委員)